

2月23日(火曜日)

ドル/円

## 住宅需要と2年債入札に注目

### 22日(月)の主な推移

ダウ平均株価

10383.38ドル  
(-18.97ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

3.7974%  
(+0.0210%)

NY原油先物

80.16ドル  
(+0.35ドル)

チャート: 30分足 22日(月)朝7時 ~ 23日(火)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所: 外為どっとコム

- ① 19日のNY株式市場での利上げ観測が後退した流れを受け、22日の日経平均株価は寄り付きから200円近い上昇となった。そのため市場ではリスクを積極的に取る動きとなり、クロス円の買いに連られる形でドル/円は91.89円まで上昇した。
- ② 上海株式市場が引けにかけて軟調に推移したことで、クロス円を中心にリスクを積極的に取る動きが後退。この動きを受けてクロス円が下落し、その動きがドル/円にも影響を及ぼしたことで、ドル/円は欧州時間にかけて値を下げた。
- ③ 手掛かり難の中、欧州の株式が軟調に推移したことやNYダウ平均株価が下落したことにより、リスクを積極的に取る動きが後退し、クロス円が下落した。この動きに連れられドル/円は日本時間23日午前1時過ぎに91.00円まで値を下げた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

## 本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.50-92.20円

市場の関心が24・25日に予定されているバーナンキ連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言に集まっており、明日の証言を前に大きくは動きづらい展開が見込まれる。本日は独2月IFO景況指数や米12月S&P/ケース・シラー住宅価格指数、米2月消費者信頼感といったあたりに注目が集まりそうである。そのほか引き続き主要各国の株式や商品市況の行方、リスクに対して積極的になるかどうかにより左右されやすい展開が見込まれる。

そのほか、日本時間24日午前3時には米財務省2年債の入札が予定されている。昨日の30年債がやや不調に終わったことから、仮に2年債の入札が不調に終わった場合、金利の上昇からドル/円の上昇につながりやすい。反対に好調に終わった場合は金利低下見込みからドル/円の下落要因となろう。

なおテクニカル面では2営業日連続で上ヒゲのやや長い陰線となっており、91円後半での上値の重さが目立つ。昨晩は安値91.00円を維持して引けているが、割った場合は90.33円(2/4安値から2/19高値の1/2戻し)を目指す展開が予想される。

## 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/23(火)	23:00	○	(米) 12月S&P/ケース・シラー住宅価格指数	-5.32%	-3.00%
	24:00	○	(米) 2月消費者信頼感指数	55.9	55.0
	24:00		(米) 2月リッチモンド連銀製造業指数	-2	1
	27:00	○	(米) 米財務省2年債入札 (440億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめております

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com